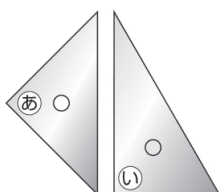


2年 【三角定規の使い方(図形)の指導】

一般的に三角定規は、角が $45^\circ \cdot 45^\circ \cdot 90^\circ$ の直角二等辺三角形と、角が $30^\circ \cdot 60^\circ \cdot 90^\circ$ の半正三角形の2枚のセットが広く普及しています。直角二等辺三角形の斜辺と、半正三角形の長いほうの隣辺は長さが等しくなっています。紙など測定対象との間に空気が残らないよう中心に穴が開いてるものも多く、目盛りがないものもあります。



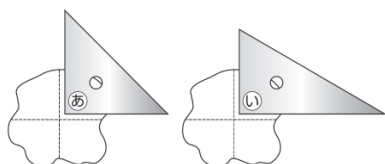
三角定規は、2年生から使い始める計器で図形の学習において初めて使用します。ここで三角定規を使用する目的は、次の2つです。

1つは、長方形や正方形を見つける時、図形の構成要素である角が直角かどうかを確認する時や、身の回りの形の中から直角を探す時に使用します。

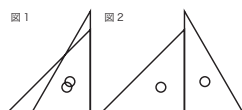
もう1つは、同じ形の2つの三角定規を並べて、様々な三角形や四角形を構成する時に使用します。

1. 対象物のかどが直角かを確認する

(1) 対象物のかどと三角定規の直角部分を重ねる。



ポイント この操作活動に伴い、2つの三角定規の2つの直角がきちんと重ね合わせる(図1)や、2つの直角を隣り合わせて直線ができること(図2)にも気づかせたい。

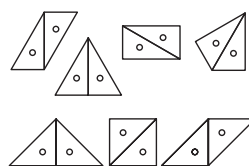


(2) 教室の内外から、直角であるものを探す。三角定規を当ててみて、ぴったりと重なる形が直角であることをおさえる。

2. 色々な形の三角形や四角形をつくる

(1) 同じ三角形の同じ長さの辺どうしを並べて、三角形や四角形を構成する。

ポイント この操作を通して、直角三角形は、三角形や四角形を対角線で二等分



してできる特別な形であることに気づかせたい。また、どのかどを合わすと直角ができるか、三角形ができるかといった見通しをもって操作している児童を見つけて評価したい。ここで、三角定規の組み合わせで、異なる図形ができることへの感動を大切にしたい。この感動と図形に対する豊かな感覚が、平面の敷き詰め活動につながる。

「いまさら聞けない?!算数指導の初歩の初歩」は日本文教出版HPにも掲載する予定です。
<http://www.nichibun-g.co.jp/>